

交渉速報

J R貨物労組本部業務部

2014年6月17日

No.23

2014年度 夏季手当妥結

基準内賃金×1.25ヶ月

2014年度 夏季手当交渉最終報告

中央本部は回答指定日を過ぎた16日も、職場からのたたかいを背景に交渉・折衝（トップ交渉を含む）を断続的に行い、要求の実現に向けてたたかいを展開してきました。

昨日23時05分より夏季手当の最終交渉に臨み、席上会社は①回答指定日を過ぎ、本日（16日）も遅い時間となってしまったことについてお詫び申し上げます。②平成25年度は全社で収支改善に努めた結果、社員の努力もあり34億円の経常利益を計上することが出来たものの、鉄道事業の収支は赤字となっている。今後も線路使用料などの経費が増加することが確実であり、経営環境は依然不透明であるとの考え方を示した上で、基準内賃金の1.25ヶ月分とする回答を示しました。

これに対して中央本部は①新中期経営計画の初年度がスタートしたが、鉄道事業部門の黒字化を実現することは労使の共通認識である。②我々はその目標のために汗を流す不退転の決意を持っている。会社はそのことを十分に認識して、今後経営姿勢を改めると共に、信義誠実の原則に従って真摯な議論を行うことを会社に突き付け、この間の私たちの努力からすれば納得出来る内容ではありませんが、昨年の夏季手当を上回ったことを踏まえ、これ以上の前進はないと判断し妥結することとしました。

職場からの創意工夫した闘いによって、夏季手当交渉を支えていただいた組合員の皆さんに対して感謝を申し上げます。貨物労組は鉄道事業部門の黒字化に向け、自ら汗を流すことを決意し取組みを進めています。その私たちの決意に対して、経営陣は自ら骨身を削る努力を具体的に示し実行する責務があります。中央本部は引き続き経営姿勢を質することを追求していきます。

JR貨物改革のたたかいを通じて私たちの雇用と生活を守り、組織の強化を勝ち取ろうではありませんか。中央本部はその最先頭で闘うことを明らかにし、夏季手当交渉の最終報告とします。

以上